

新刊案内



『怪盗レッド』 26 秋木 真/作	KADOKAWA	T/アシ
『引きこもり姉ちゃんのアルゴリズム推理』 井上 真偽/著	朝日新聞出版	T/イマ
『ぶたのしっぽ』 海緒 裕/作	講談社	T/ウユ
『隣の国の人々と出会う 韓国語と日本語のあいだ』 斎藤 真理子/著	創元社	T/サマ
『わたしは、跳ぶ! トランポリン部』 濱野 京子/作	新日本出版社	T/ハキ
『サンショウウオの歌が聞こえてくるよ 生物部』 森川 成美/作	新日本出版社	T/モシ
『SNSから心をまもる本 被害者にも加害者にもならないために』 小木曾 健/監修	Gakken	T007/エス
『本ができるまで カラー版』 岩波書店編集部/編	岩波書店	T022/ホン
『さみしい夜のページをめくれ』 古賀 史健/著	ポプラ社	T159/コフ
『正しく疑う 新時代のメディアリテラシー』 池上 彰/監修	Gakken	T361/タタ
『10代のつらさに寄りそう本 人への優しさと、想像力が身につく』 田村 節子/監修	Gakken	T367/シユ
『青春サブリ。新しい一歩を踏み出す 心が元気になる、5つの部活ストーリー』 青木 美帆/文	ポプラ社	T375/アミ



ティーンズのココロ通信

令和7年6月1日 発行

Eメール : info@lib-yama.jp

HP : <https://www.lib-yama.jp>

山口市立中央図書館 258号

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL : 083-901-1040

FAX : 083-901-1144



雨・雨・雨・・・



今月のテーマは「雨・雨・雨・・・」です。

梅雨の季節がやってきました。梅雨の湿気のある不快な空気は苦手ですが、物語の中では雨が素敵だと感じることもあります。今月は雨に関連する本を紹介しています。

雨の日には自宅でゆっくりと読書を楽しんでみませんか。



●『「羅生門」現代語訳名作シリーズ』1

芥川龍之介／作 理論社 T／アリ

暗く冷たい雨の夜。荒廃した平安京の羅生門の下で行く当てもない男が1人、雨宿りをしていた。雨は止まず、男は楼上へ上がろうとしたが、そこには薄汚い老婆がいて転がっている無数の死体から髪の毛を抜き取っていた。男は恐怖を覚えるが、それはやがて憎しみに変わる。そして老婆を問い詰めるが、そのうち妙な勇気が湧いてきて……。正義とは何か、悪とは何か、極限状態に置かれた人間の心理を描いた作品。現代語訳で読みやすくなっています。(H.S)

●『空の名前』

高橋 健司／写真 文 KADOKAWA T451／タケ

美しい空や天候にまつわる素敵な言葉を集めた写真集。雲・雨・雪・光・風、などの季節に関係した言葉が写真と説明文で紹介されています。私が印象に残っているのは、雨に関係した言葉です。例えば「肘かさ雨(ひじかさあめ)」「村雨(むらさめ)」「潦(にわたずみ)」など。雨にはこんなにもたくさん名前があり、昔の人はその名前を用いて歌を楽しんでいたのだと思いました。日本語の素晴らしさに感動すると思います。(T.M)

●『カタツムリ・ナメクジの愛し方 日本の陸貝図鑑』

脇 司／著 バレ出版 T484／ワツ

雨が多い季節、梅雨になりジメジメしてくると、カタツムリやナメクジをよく目にするようになりますよね。ジメジメとしたイメージがある彼らを苦手な人は多く、好きな人はかなりの少数かもしれません。

そんな彼らの生態を紹介し、飼い方、そして愛し方も教えてくれるのがこの本。カタツムリとナメクジのことをあわせて「陸貝」ということ、日本産の陸貝が約800種もいることなど、初めて知ることがたくさん載っていますよ。(K.O)

●『トッケビ梅雨時商店街』

ユ・ヨンガン／著 静山社 TF／ユヨ

希望通りの人生が手に入る街、トッケビ梅雨時商店街。セリンはそこに行くためのチケットを手に入れ、色々な人生を試してみる。でもどの人生も完璧ではなく、なかなか希望の人生が決まらない。梅雨時商店街に滞在できるのは梅雨の間だけ。時間が迫る中セリンが見つけた最高の人生とは？韓国の妖怪トッケビや大きさが変わる護り猫イッシャ、幸運が込められた玉クスルなどファンタジーの世界にひたりながら、本当の幸せとは何か、あなたも考えてみませんか？(H.S)

●『雨にシュクラン』

こまつ あやこ／著 講談社 T／コア

憧れの書道部がある高校に入学した真歩だったが、父が病気で仕事を辞め引越すことに。家庭の事情で高校中退を選びます。そんな彼女が、図書館の宅配ボランティアを始めたことから、アラビア書道に興味を持ち始めます。アラビア書道を通してイスラム文化やトルコにルーツをもつ姉弟に出会い新しい道を見つけます。そんな彼女が選ぶ新たな進路とは。シュクランとはアラビア語で“ありがとう”という意味。「約束は雲、実行は雨」。(T.M)

●『小説言の葉の庭』

新海 誠／著 KADOKAWA /シマ

靴職人を志す高校生の孝雄と、謎めいた年上の女性・雪野の二人が雨の降る朝、庭園で出会う。この作品は、同名劇場アニメーションを監督自ら小説化したもの。映画は孝雄と雪野の二人をメインに描かれた46分の中編だが、小説では二人以外の登場人物視点の話もあり、映画では描かれなかったエピソードが盛り込まれ、小説だからこそできる表現で『言の葉の庭』という作品世界を深めている。ぜひ、映画と小説二つあわせて見てほしい。(K.O)